

〔 有限会社 郡鉄工所 〕

## 急増する生産依頼に ロボット化で応える

既存の体制では取引先からの増え続ける発注に対応仕切れずにいた同社は、  
熟練の職人が行っていた作業をロボット化することで生産力を4割増強。収益率も向上しました。



代表取締役

郡 史祐

こおり ふみひろ

多くのメリットをもたらした  
溶接ロボット

創

業以来、大手メーカーが手掛ける軽量鉄骨造のドラッグストアやスーパーの鉄骨製作を行ってきた同社。近年は、その加工品質の高さで取引先の評価を得て、ホテルやマンションなど重量鉄骨造建物の鉄骨製作を主に手掛けています。ここ数年は、関東・関西圏からの建設依頼が増加するのに伴って取引先からの製作依頼が同社の生産能力では対応できないほどに急増していました。

「その対応策として、複数の鉄骨製作会社で工程を振り分けて生産することになり、当社では鉄骨柱の「仕口」と「コア」と呼ばれる部分の溶接を行うことになりました。しかしその後、さらに発注量が増え、既存の体制ではとても間に合わなくなっ

ていたんです」

そ

の状況を受け、同社は、取引先からの増産要求に応えるべく、熟練溶接士2名で行っていた溶接工程に溶接ロボット「鉄骨天吊マルチワーク溶接システム」を導入しました。「目的だった生産性の向上を実現し、増産の要望に応えられるようになっただけでなく、自動化によって品質のバラツキがなくなりました。また、吸い込むことで健康障害をおこす恐れがある溶接ヒューム対策にもつながり、作業環境も改善できました。さらに、製造コストが下がったことで収益率も向上するなど良いことづくめです。

今後も作業のロボット化を進めることで作業効率・環境共に改善を続けていきます」



セッティングしておけば夜間や昼休憩時など  
無人の間も溶接作業を行えるようになった。

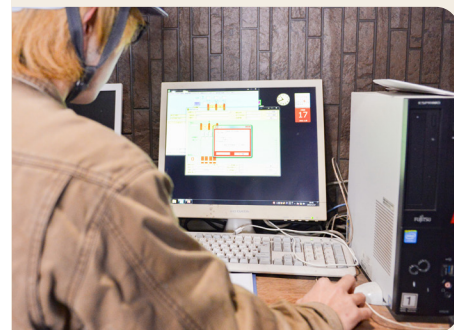
ものづくり  
補助金活用  
ココが  
ポイント!

40.9%  
の短納期化  
を実現

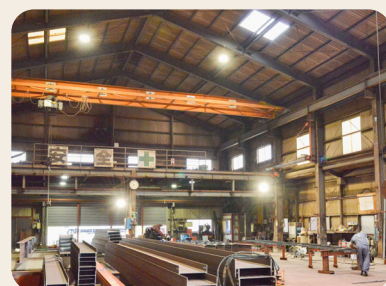


仕口鉄骨製品を一つ製造するのに、これまでは熟練溶接士2名で7時間掛かっていたのが、溶接ロボットによって4.5時間に短縮。取引先からの要望に対応することが可能になりました。

遠隔操作を行えるので、  
夏場も酷暑の中での溶接  
作業を行わなくても済む  
ように。



単純作業や危険  
作業などのさら  
なる自動化を計  
画している。



ものづくりへの想い

携わった建物が県内外にたくさんあるのですが、見かけるとやっぱりうれしい、自慢したくなります。技術を身に付ければずっと続けられる仕事なので、若い人たちにぜひチャレンジしていただきたいと思います。

今後の展望

溶接ロボットは進化を続けていますので、今後もさらにロボット化を進めることで作業効率、環境共に改善を重ねて若い人たちに選ばれる会社にしていきたいです。業界のイメージ改善の力にもなれればと思います。

case  
08

建築工事業

有限会社 郡鉄工所

設立：1992年  
代表取締役：郡 史祐  
資本金：300万円  
従業員：13名  
事業内容：鉄骨製造

〒880-1101  
宮崎県東諸県郡国富町大字本庄543番地  
TEL.0985-75-2653  
FAX.0985-75-3873

